

鵜ヶ池の鳥類相 ～鳥類調査について～

応用生物科学部 応用生命科学課程2年 後藤明日香

目次

- ・鳥類調査の概要
- ・過去と現在の比較
- ・バンについて
- ・今後の展望

鳥類調査の概要

鳥類調査の概要

目的

- ・大学周辺を利用する鳥類相を把握する
- ・過去の記録と比較することで、鳥類相の変化を把握する

鳥類調査の概要

方法

■ 調査方法(ラインセンサス法)

鳥見のルート上を一定のスピードで歩き、
見える範囲の鳥類の種名・個体数を記録する

■ 調査対象 鳥類全般

■ 頻度 野生生物同好会カテナビタ(鳥見を行う別のサークル)を含め月4回以上行う

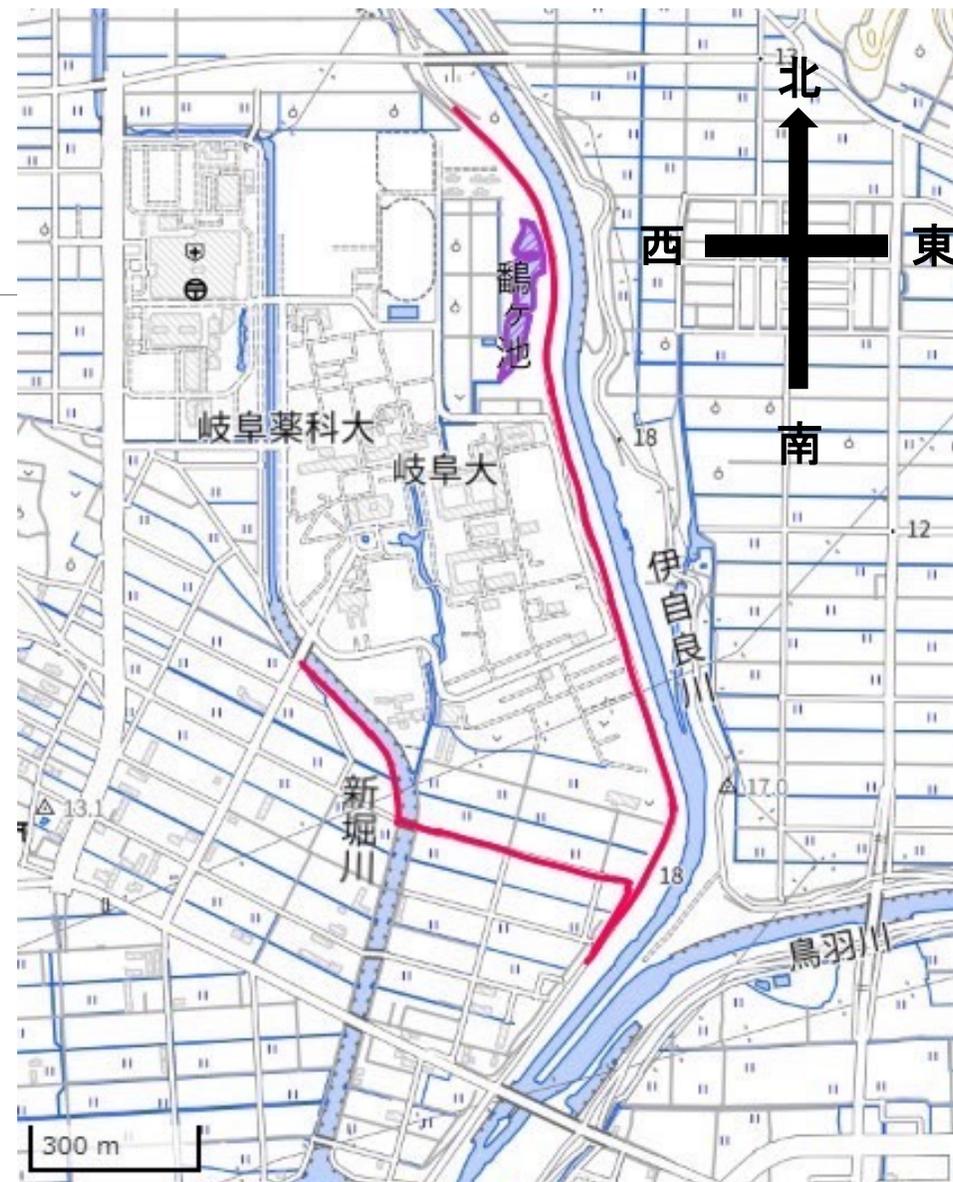
■ 使用する道具 記録用紙、筆記用具、双眼鏡、カメラ

鳥類調査の概要

現在の鳥見のルート

赤：鳥見のルート

紫：鷓ヶ池



出典：国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

過去と現在の比較

過去と現在の比較

使用する記録

①1971年～1980年8月 (9年7か月)

頻度: 月1・2回程度、計115～230回 調査人数: 不明

※鶴ヶ池から見る岐阜大学の環境: 1997「岐阜大学祭シンポジウム」記録

②1992年11月～1997年10月 (5年)

頻度: 月4・5回程度、計240～300回 調査人数: 不明

※鶴ヶ池から見る岐阜大学の環境: 1997「岐阜大学祭シンポジウム」記録

③2018年7月～2021年3月 (2年8か月)

頻度: 月4、5回程度、計146回 調査人数: 1人

過去と現在の比較

時系列

①1970年代(岐阜大学移転前 湿地帯でヨシ原が広がっていた)

↓ 岐阜大学の移転 伊自良川堤防工事

②1990年代(池の水位低下 乾燥地化 ヨシの減少 乾燥地の植物が繁茂)

↓

③現在(ヘドロが堆積 水質悪化 乾燥地化 木本の侵入)

過去と現在の比較

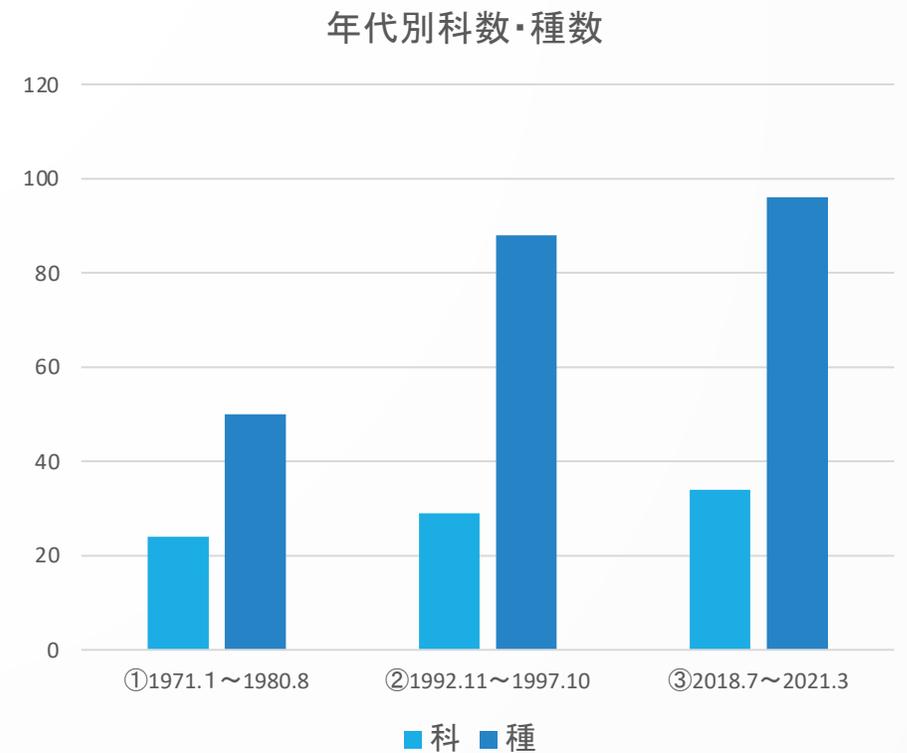
科数・種数の変化

①27科50種

②31科88種

③34科96種

→科数・種数は増加傾向にある



過去と現在の比較

生活圏別の種数の比較

水鳥、水辺の陸鳥、陸鳥で区別する。※原色日本野鳥生態図鑑参照

水鳥→例:カモ目、チドリ目など

水辺の陸鳥→陸鳥のうち、常時、河川や湖沼で生活する鳥
例:セキレイ類、カワセミ類など

陸鳥→樹鳥類と地鳥類に含まれる一部の鳥
例:スズメ目、ハト目など



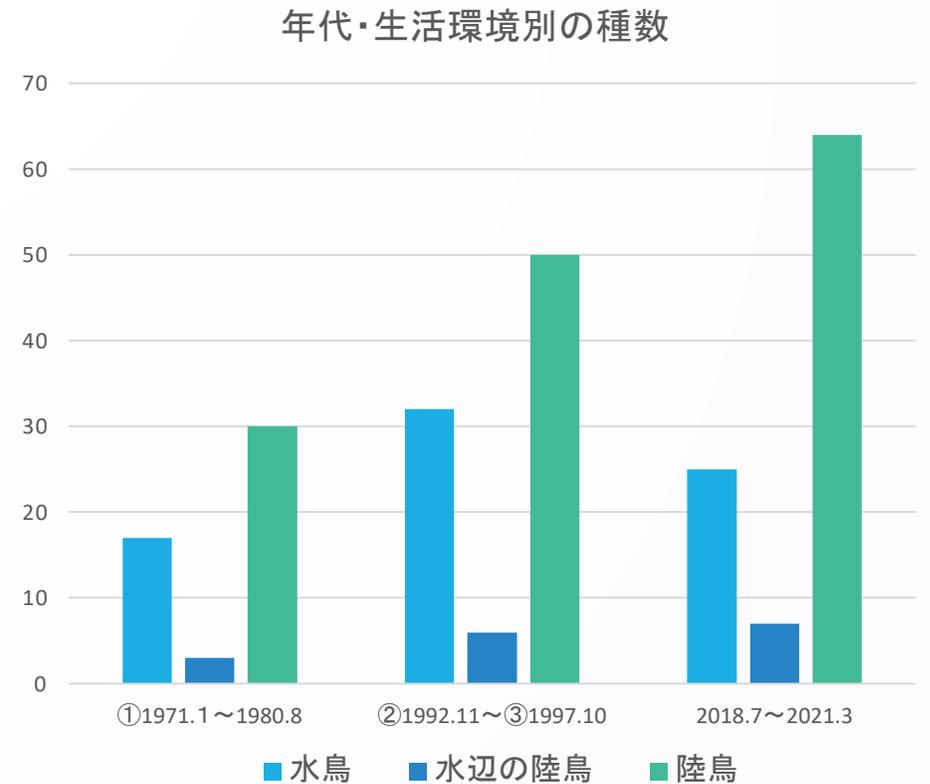
※1

過去と現在の比較

生活圏別の種数の比較

①水鳥17種	水辺の陸鳥3種	陸鳥30種
②水鳥32種	水辺の陸鳥6種	陸鳥50種
③水鳥25種	水辺の陸鳥7種	陸鳥64種

→陸鳥は増加傾向にあるが、
水鳥は1990年代以降、減少傾向にある。



過去と現在の比較

水鳥について

- ・②と③で比較し、サギ類・シギ類の種数は減少傾向にある

サギ類の種数:

首や足、嘴が短い種の種数が減少している。

- ・水草の減少・圃場整備・湿地の減少
→餌である昆虫類や両生類の確保が難しくなっている

一部、全国的にも減少している種がいる



	①	②	③
ダイサギ		○	○
チュウサギ	○	○	
コサギ	○	○	○
アマサギ	○	○	
ゴイサギ	○	○	○
アオサギ		○	○
ヨシゴイ	○	○	
ササゴイ		○	

過去と現在の比較

水鳥について

シギ類の種数:

個体数は全国的に減少傾向にある。

1970年代と2000年代のシギチドリ類調査では
春季で約40%、秋期で約50%減少している

湿地の減少

→面積が狭いため、猛禽類の攻撃が防げない



※2

	①	②	③
タシギ	○	○	○
オオジシギ		○	
クサシギ	○	○	
タカブシギ	○	○	
イソシギ		○	
オジロトウネン		○	

過去と現在の比較

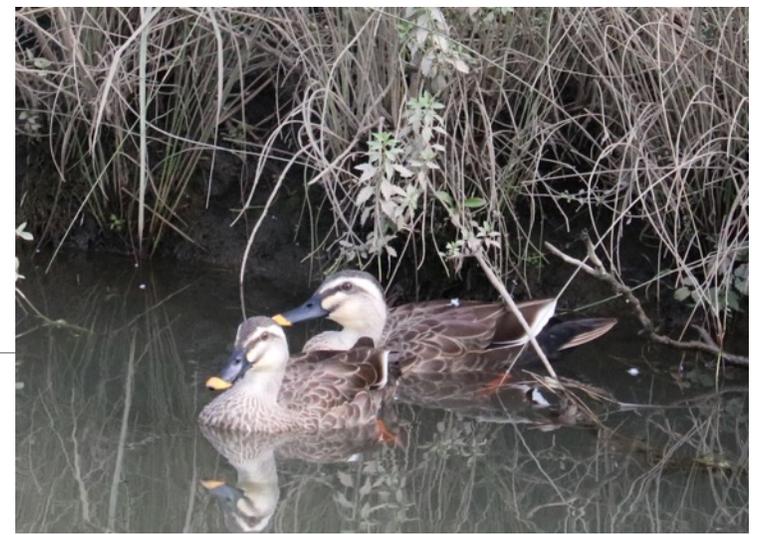
水鳥について

①、②、③を通じてカモ類の種数は増加している。

・カモ類の種数：

- ①はすべて水面採食ガモ類だが、
- ②、③には潜水採食ガモ類が含まれている。

周辺地域の都市化、乾燥地の植物、木本の増加
→休息地としての利用がしやすい



	①	②	③
オカヨシガモ			○
ヨシガモ		○	○
ヒドリガモ		○	○
アメリカヒドリ			○
マガモ	○	○	○
カルガモ	○	○	○
ハシビロガモ		○	○
オナガカモ			○
トモエガモ		○	○
コガモ	○	○	○
キンクロハジロ			○
ミコアイサ		○	○
オシドリ		○	△

過去と現在の比較

陸鳥について

- ・木が増えたことにより、森林に住む種の増加
- ・人家や公園、庭で確認される種の増加

- ・①で確認された種は②か③のどちらかでは確認されていた
- ・②から③で増加した種は、公園林、平地林に住む種が多い

バンについて

バンについて

特徴

バン(鶉) *Gallinula chloropus*

ツル目クイナ科 体長35cm(ハトくらい)

・夏鳥だが越冬する個体もいる

生息地：淡水の湿地、特にヨシ原

食性：雑食性。水生植物、昆虫・貝類など

・泳ぎや飛ぶのが苦手

・水草で巣を作り繁殖する



バンについて

鶺鴒池大学転移前、岐阜大学周辺は湿地帯でバンの集団繁殖地であった
大学が転移する際、自然保存地としてその湿地の一部を残した
→鶺鴒池と命名される。

1978年の大学建設工事以降の、バンの繁殖は確認されなくなる

1997年4月26日にバン一個体が鶺鴒池に立ち寄った情報があった

2021年1月11日、バンの若鳥の死体が発見された

現在、伊自良川でまれに姿を確認できる(河川敷では繁殖している可能性が高い)

バンについて

バンがいない・繁殖しない理由

鵜ヶ池の水草の減少 → バンが住みにくい環境への変化

- ・巣の作製が難しい
- ・餌資源の減少
- ・隠れるための場所が減少

今後の展望

今後の展望

- ・ 鷺ヶ池はヘドロが堆積し、より水深が浅くなっていくと想定される
 - カモのねぐらとしての利用もなくなる可能性がある
 - 現状を維持・改善するためには、
かいぼりやヘドロの搬出などの必要性がある
- ・ バンやオオヨシキリが繁殖し、カモ類が採食できるような環境にするには
消失したヨシ原を再生する必要がある
- ・ 大学周辺の工事や今後の活動による環境の変化によって、
鳥類相がどのように変化するのか調べていきたい

引用・出典

中村登流、中村雅彦「原色日本野鳥生態図鑑〈陸鳥編〉」保育社、1995年2月

岐阜大学祭シンポジウム「鷺ヶ池から見る岐阜大学の環境」実行委員会、「鷺ヶ池から見る岐阜大学の環境：1997年『岐阜大学祭シンポジウム』記録」、[岐阜]:岐阜大学祭シンポジウム、「鷺ヶ池から見る岐阜大学の環境」実行委員会、1998.5

岐阜県河川課、「河川整備計-岐阜県公式ホームページ(河川課)」岐阜県公式ホームページ

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/1498.pdf>(参照2023,4,13)

Ⅱ. サギ類の集団繁殖地と集団ねぐらの現状と動向 (biodic.go.jp)、<https://www.biodic.go.jp/reports/4-03/e031.html>

守屋年史“第3回 この40年で半減した日本のシギ・チドリ類”図鑑.jp、<https://i-zukan.jp/columns/39>

シギ・チドリ類調査 - モニタリングサイト1000 (biodic.go.jp)

天野一葉, 2006. 干潟を利用する渡り鳥の現状. 地球環境Vol.11 国際環境研究協会

バードリサーチ カモ類の個体数変化の分析 (bird-research.jp)、https://www.bird-research.jp/1_katsudo/waterbirds/gankamo/pop_analysis.html

(資料)シギ・チドリに関する専門家の意見 | 大阪自然環境保全協会 (nature.or.jp)

<https://www.nature.or.jp/action/yumeshimamirai/asses20211003/moriya.html><https://www.biodic.go.jp/reports/4-03/e031.html>

※1 : MIDORINOTORI、2020.9.5、<https://midorinotori.com/cms/wp-content/uploads/2020/09/DSCN9299-1600x1200.jpeg>

※2 : Makoto Takahasi、2020.9.17、<https://tajimamori.com/wp/wp-content/uploads/2020/09/tasigi200917.jpg>